

3 通信手段の確保

大災害が発生すると、安否確認や問い合わせなどの電話が爆発的に増加し、電話がつながりにくい状況が続くので、以下のような対応が大切である。

(1) 一斉送信メール配信の構築

「緊急連絡システム」として、保護者から携帯電話やパソコンのメールアドレスの提供を受け、一斉に状況を配信できるシステムを構築する。

(2) 学校ホームページの充実

学校のホームページ内に「緊急なお知らせ」等のコーナーを設けることや、携帯電話でも情報を閲覧できるように整備を進め、学校の状況等について、最新の情報提供に努める。
※ NetCommons（ネットコモンズ）を使った、一斉メール配信やホームページの整備が推奨される。

【NetCommons(ネットコモンズ)について】

NetCommonsは、国立情報学研究所で開発されたコミュニティウェアであり、ホームページ等に活用することができる。

《活用に関する利点》

- ・ホームページの更新をワープロ感覚で容易に行うことができる。
- ・インターネットを介して校外から更新ができるので、緊急時にも対応ができる。

(3) 災害用伝言ダイヤルの活用

災害用伝言ダイヤルは、より確実に連絡が取れる手段であるが、使用に際しては制約があるので確認を要する。（個人的な使用にのみ利用すること。）

① 災害用伝言ダイヤルについて

- ・利用できる電話
個人加入電話、公衆電話、ひかり電話および避難所等に設置されている公衆電話、携帯電話、PHSからの利用に関しては、契約している通信事業者へ確認する。
- ・提供開始の時期
震災発生時に、被災地の方の安否情報を確認する通話が増加し、被災地への通話がつながりにくくなった場合このサービスが提供される。

② 通信各社が提供している災害用伝言サービス（参考）

- ・NTT西日本「災害用伝言ダイヤル171」
- ・NTT西日本「災害用ブロードバンド伝言板web171」
- ・NTTドコモ「iモード災害用伝言版」
- ・au「災害用伝言板サービス」
- ・SoftBank「災害用伝言板サービス」
- ・WILLCOM「災害用伝言板サービス」
- ・イー・モバイル「災害用伝言板サービス」

③ 体験利用日

- ・毎月1日および15日（00:00～24:00）
- ・正月三が日（1月1日00:00～1月3日24:00）
- ・防災週間（8月30日9:00～9月5日17:00）
- ・防災とボランティア週間（1月15日9:00～1月21日17:00）

